

皆様の笑顔と幸せのために 喜んで働きます!

日頃よりご支援いただきありがとうございます。
市政報告をお送りいたします。



皆様の笑顔と幸せのために喜んで働く、会派『喜働(きどう)』通信です。
いよいよ新しい令和の時代を迎えることとなりましたが、皆様、お変わりありませんでしょうか？
時は流れても変わらぬものもあり、125代続く天皇家を始め日本には脈々と続く素晴らしい歴史もあります。
歴史は伝えていかなければ途絶えてしまいます。伝統文化は守ろうとしなければ消えてしまうものばかりです。
名張に住む私達が『地元を知り、誇りを持ち、愛着を持つ』からこそ、未来へ繋げていくことが出来ます。名張を愛する人を一人でも増やし、共に歩んでいけるように、皆様の声を聴きながら、しっかりと活動してまいります。



第 383 回定例会 (2018年12月議会)

12月7日～12月10日開会
本会議・一般質問より

人材育成(民間企業研修)について

現状

人事院では国の行政の能率的な運営のため、国と民間企業との間の人事交流を推進しています。職員を民間企業に派遣することによって、行政課題に柔軟かつ的確に対応するために必要な知識及び能力を有する人材の育成を図るとともに、民間企業から効率的かつ機動的な業務手法を体得している者を職員として採用することによって、行政運営の活性化を図ります。

Q. 現在、各県、各市が民間企業研修に取り組んでおりますが、名張市として民間企業への研修の実績、及び、今後の予定がありましたら、教えて下さい。

A. 現在は実施していないが、過去にはNTT西日本(通信技術習得)、トヨタ自動車本社(危機管理対策)、法律事務所(法律相談、訴訟対象のための実務経験)に派遣しました。今後、知恵を出し変化に対応できる元気な職員をどのように育てていくか、テーマや手法は柔軟に対応し検討していく。



要望事項

浜松市では年単位で民間企業研修に取り組んだことで、職員の意思決定のスピードが変わり、働き方に違いが出て、更には長期的な意識改革も出来た。是非、名張市においても市職員の方の民間企業などへの研修を積極的に取り組まれることを強く要望する。

中学校給食実施について

現状

県内14市で唯一、中学校給食が無い名張市ですが、昨年度「市中学校給食のあり方検討委員会」で検討いただき、センター方式が望ましいと方針を決めていただきました。



Q. 名張市内の小学校では自校式の給食を実施し、食育にも取り組んでいます。これから中学校給食実施に向けて新しい給食センターを作るにあたり、財政の厳しい名張として、いかにランニングコストをかけず事業を継続していくか、更には給食センターが収益を上げていくことも出来るのではないかと考えています。給食事業が将来的に無理なく継続していくには、どのようにすればいいとお考えですか？

A. 庁内のプロジェクトチームにおいて、整備に要する財源の確保、給食施設の整備手法、他の民間活力の導入も含めて検討中。方向性が決定次第、議会にも説明したい。運営方法については、DBO方式(広い意味ではPFI方式も含まれる)や長期包括委託方式など、民間の資金やノウハウの活用についても前向きに検討していく。

要望事項

新潟県見附市では、全国で初めて文部科学省の許可を受け、給食調理に使わない時間は民間業者に貸し出して有効活用を図る取り組みを始めました。使用料収入を施設の修繕や運営に充てられると効果を期待されている新たな取り組みにも着目し、継続する給食センターの実施を強く希望する。



注釈：DBO(デザイン・ビルド・オペレート)方式とは、公設民営の一つの方式で、公共が資金調達を担い、設計・建設、運営・維持管理を民間に委託すること。PFI方式(プライベート・ファイナンス・イニシアチブ(民間資本主導)の略)とは、民設民営の一つの方式で、民間が事業主体としてその資金やノウハウを活用して、公共事業を行う方式。



名張市立病院の経営

現状

市立病院開院以降、毎年、一般会計から病院事業会計(市立病院、看護学校、老人保健施設)へ相当な額の繰入金が発生している。昨今、市立病院へは平成22年度から10億円以上の繰入金が発生している。平成29年度は約1億9600万円(うち運営分が約7億1500万円、水道事業会計償還分1億2000万円、投資事業(起債償還分)分が約3億6000万円)となった。

Q. 第2次市立病院改革プラン実施計画が平成29年3月より実施された。29年度の実績として病床利用率は87.2%と上昇したが、医療収益は約1億7千万円の赤字。赤字の理由は何と推測し、今後どのように改善される予定か。

A. 赤字の原因は、病床利用率上昇に繋がる延べ入院患者数は増加したものの、診療に要した経費が予想以上にかかったこと、1日辺りの診療単価が伸び悩んだと分析する。今後の改善としては、入院患者のベッドコントロール、病診連携の推進による紹介患者の増加、評価される施設基準の取得、医療の質を高める医学管理料の算定率の向上、診療材料費などの支出の抑制にも取り組む。

要望事項

医療の質と患者の安全に関する継続的な改善に関する第三者評価認証機関や医療経営士など外部の目線や知恵や技術を活用し、市民の命の安全を守る市立病院の更なる向上を心から願います。

★政務活動報告★ (健康づくりと地域医療に関する調査)



ブルーゾーンを目指して (健康で長生きの人が多く居住する特別な地域)

北原 茂実
基調講演会内容

☆米国の研究者、ダン・ベットナーをリーダーとする専門家グループ(医者、人類学者、人口学者、栄養学者、疫学者たち)は、これらブルーゾーンを訪れ、長寿の9つの要因を突き止めた



世界の100歳人に学ぶ 「健康」と「長寿」の9つのルール

- ルール 1. よく動く
- ルール 2. 野菜中心の食事
- ルール 3. 適度に飲酒
- ルール 4. 腹八分目
- ルール 5. ストレス解消になる行動をとる
- ルール 6. 「いきがい」がある
- ルール 7. 社会的集団に属する
- ルール 8. 宗教的な活動に参加する
(言い換えれば精神的な活動。例：神社仏閣参りなど)
- ルール 9. 家族との強い絆を保つ

あるべき医療

- ・ 本来に必要なのは基本的な医療と人々が助け合える社会
- ・ 医療を総合生活産業化することが社会に繁栄をもたらす。
- ・ リハビリテーションこそが将来医療の中核的技術になる。

未来の医療

- ・ 重厚長大型の医療から、再生・免疫療法を主体とする医療へ。
- ・ 狭義の医療の現場は、よりテクノロジーの世界に近いものに。



皆様からのご意見、
ご要望をお待ちしています。

発行：会派「喜働(きどう)」
住所：名張市鴻之台1番町1番地
電話番号：090-3564-5380(川合滋 直通)
：090-7898-9453(足立よしえ 直通)
ホームページ：http://www.adachiyoshie.jp